

事業協同組合連合会



パチンコ依存問題に対応する「リカバリーサポート・ネットワーク」設立を説明する西村直之(中央)＝23日午後、都内のホテル

悩む人々に情報提供

全国規模の相談機関が設立

パチンコ依存

【東京】パチンコに過度にのめり込み、多重債務などに苦しむパチンコ依存問題の全国規模の相談機関「リカバリーサポート・ネットワーク」が、四月十九日から沖縄を拠点に活動を開始する。代表は西原町の精神科医で大学非常勤講師の西村直之さん(医療法人の会あらかきクリニック院長)が務める。二十三日夜、都内のホテルで記者会見が行われ、西村さんは「パチンコなど遊技依存症は手つかずの状態だった。依存症に悩む人々へ適切な情報を提供していきたい」と語った。同ネットワークは西原町内に事務所を設置。四人態勢で全国のパチンコ依存問題に電話で対応し、解決に向けた情報提供を行う。パチンコ依存問題の相談員の育成、問題解決を促す機関の整備とネットワーク化を進めていく。

会見で西村さんは「パチンコ依存に悩む人のニーズと、既存組織が提供するサービスは食い違いが大きく、事態は深刻化している。医療現場でも対応できない人々を援助する窓口が必要だ」と語り、「パチンコ店には社会的に弱い立場にある人々が集まっている。パチンコ店を社会資源と捉え、支援の情報を発信す

れば、依存症回復のきっかけの場として機能するのではないかと語った。同ネットワークは三月中旬にホームページを公表する。

P: //www.geocities.jp/rsnokinawa/index.htmlを開設し、相談窓口の電話番号などを